

学校名		嬉野市立五町田小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である							
1 前年度 評価結果の概要		・担任の負担削減のために、宿題や採点等について級外が分担していくことは非常に有効であった。一方で、どんな箇所を間違えているのか、何につまずいているのかを知るためには、担任が書き直しをさせることも大切であるので、書き直しのさせ方については今後の課題である。 ・コロナ後で「学び合い」を活発に行うことができるようになったが、学力の土台となる基礎・基本をしっかりとし身につけるために、復習や補習、家庭学習を徹底してやることも重要であり、全職員で基礎学力の定着に取り組むことが大切である。 ・自分の考えをもたせるとともに、書くことになれるために、どの学級もテーマ日記に取り組んだ。次年度も書く活動に取り組み、俳句・川柳作りやNIE等の国語力の底上げについても検討していく。 ・完全不登校の児童はいないが、年間30日以上欠席する児童がいるので、SCやSSW、心の相談員等の専門家と連携して教育相談を充実させる。 ・家庭でのスマホ・ゲーム等が課題であり、家庭への啓発活動について、PTAと連携して行う必要がある。									
2 学校教育目標		「かしこく やさしく たくましく 元気いっぱい五町田っ子の育成」 ○かしこい子（知）主体的に学び、集団の中で生き生きと活動できる子ども ○やさしい子（徳）自分で考え行動し、他者と協力できる子ども ○たくましい子（体）心も体も健康で、ねばり強い子ども									
3 本年度の重点目標		① 全ての子どもが「活動する喜び」「分かる・できる喜び」「教え合い・学び合う喜び」「追究・工夫する喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。 ② 全ての子どもに「関わり合いの中で生き生きと学ぶ」機会を作り、「学校に行きたい」と思える期待感の向上を図る。									
4 重点取組内容・成果指標		中間評価		5 最終評価		主な担当者					
(1)共通評価項目											
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し			達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学び合いを取り入れた分かりやすい授業の実践 ○基礎的な学習内容の確実な定着を図る取組	○「嬉野メソッド」に基づく授業に取り組み、 「授業が分かりやすい」と回答した児童が90％以上。 ○マスターテスト全員合格	・「嬉野メソッド」に基づく授業の中で、自分の考えをもつ場や学び合いの場を設定する。 ・思考を助ける掲示を活用したり、発問を工夫して、学習内容の理解を図る。 ・長期休業前に漢字と算数のまとめのテストで全員9割以上の点数をとらせるまで繰り返し指導する。	A	・アンケートで「授業がわかりやすい」と回答した児童が94.9％である。 ・夏季休業前のマスターテストでは全児童が合格するまで実施した。 ・児童の主体的な学びを促す指導を今後も充実させる必要がある。		B	・児童のアンケートでは授業が「わかりやすい」という回答が97.7％で成果指標はクリアしているが、単元ごとのテストの結果では十分に学力が定着しているとは言えない状況もある。 ・保護者アンケートからは家庭学習の不足や読書量の少なさが伺え、今後の学力向上のための課題である。	B	・分かりやすい授業・マスターテスト・傷りの補充学習タイム等、全職員が協力して取り組んでいるところは、おおいに評価できる。 ・家庭学習の不足と読書量の少なさについて、具体的な対策を講じたり、保護者との連携の在り方を再点検する必要がある。子どもたちなりに、頑張ってきているのではないか。 ・家庭での学習をいかに習慣づけていくか、保護者としても考えていく必要がある。 ・日々のテストの結果を見て、「頑張った」と子どもが満足できる力をつけてもらえたらと思う。	かしこい子プロジェクト 長 学力向上担当 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価のアンケートの「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う」と回答した児童が90％以上	・年に2回アンケートを実施 ・道徳の授業・体験活動の充実 ・人権月間(11月) (ふれあい道徳、人権集会、きらりの木)	A	・児童アンケートの「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う」の項目で肯定的な回答をした児童は94.9％であった。 ・7月に、11月の「ふれあい道徳」の授業参観のための教材研究としてネットリテラシーについての研修を行った。10月頃には全職員で授業作りを行う予定である。		A	・児童アンケート「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う」の項目で97.7％と約3ポイント上がった。 ・11月の「ふれあい道徳」では、ネットリテラシーに関する教材の中で、人権に関わる問題を扱った学年もあり、保護者に授業を公開することができた。 ・人権月間として、学級の行動宣言やきらりの木に取り組んだ。人権集会では、障害を抱えながらも前向きに生きていらしやる方の話を聞き、互いに認め合うことや支え合うことの大切さを学んだ。	A	道徳教育推進担当 人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応 ○「学校が楽しい」という児童の割合が90％以上	・日常の観察を心がけ、子どもの小さなつづきやきを見逃さないようにし、子どもが相談しやすい雰囲気作りを行う。また、SCやSSW、心の相談員等との連携を図る。 ・心のアンケートや仲良しアンケート、QUテストを行い、個人面談週間を設ける。 ・子ども同士で認め合うような学級づくりに努める。 ・各種おたよりで、学校での取り組みを周知する。	A	・児童アンケートの「学校が楽しい」の項目で肯定的な回答をした児童は91.5％だった。 ・管理職や級外職員も担任とともに児童の支援を行い、いじめ事案などに関しては、チームで対応したり、全職員で連携を図ったりした。 ・仲良しアンケートをもとに、全児童が担任と面談を行う個人面談週間を設けたことで、いじめの早期発見、早期対応につながった。 ・講師を迎えQ－Uの研修会を実施した。分析をするだけでなく、夏休み以降の具体的な方策を立てることができた。		A	・児童アンケート「学校が楽しい」の項目で93.7％、保護者アンケート「子どもは楽しく学校に通っていると思う」の項目で91.4％であった。 ・心のアンケートや、仲良しアンケート、個人面談週間などを実施したことで、悩みを抱えている子ども達の早期発見、早期対応ができた。子ども達のつづきや変化などを見逃さないように心がけることができた。 ・SC、SSW、不登校コーディネーターなど外部機関との連携がうまくいっていることで保護者や児童の支援につながった。	A	教育相談担当	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生たちはあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・キャリアパスポートの活用を図る。 ・生活や学習において自分のためや見通しをもたせて、活動後の振り返りを行うことで自分の成長につなげていく。	A	・児童アンケートの「先生たちは、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目で、肯定的な回答をした児童は90.3％、「将来の夢や目標を持っている」の項目では91.5％だった。 ・学習面だけでなく、掃除や係活動などの生活面にも目を向け、全職員で子ども達の頑張りを認めるようにしていく。 ・今後も学期初めや行事前には、キャリアパスポートの目標の記入を行うようにする。		A	・児童アンケート「先生たちは、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の項目で、よくあてはまると答えた児童が94.3％であった。今年度始まったばかり掃除で担任以外の職員からもほめられる機会が多くなり、自己肯定感が高まったように感じる。 ・児童アンケートで「将来の夢や目標を持っている」の項目で87.9％と目標値は達成できた。 ・大きな行事の前には、キャリアパスポートの目標を記入し、事後には振り返ることができた。	A	・将来の夢や目標は、残念ながら学齢が上がるほど下がってくる。いかに自己肯定感・有用感を高めていくかが大事だと思う。	やさしい子プロジェクト 長 生徒指導主任
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「生活・家庭学習チェックシート」を活用し、生活習慣に関する項目が「できた」と答える児童が90％以上	・「生活・家庭学習チェックシート」に取り組む、各項目を意識して生活をさせ、自分の生活を振り返らせる。また、時間や時刻については、家庭で話し合って決めてもらう。 ・「生活・家庭学習チェックシート」の意識づけを図るとともに、結果についての情報を発信し、保護者との連携を図る。	A	・規則正しい生活ができている(早寝・早起き・朝ご飯・歯みがきなど)と答える児童が96.6％だったことに対し、保護者回答の肯定評価91.5%の内訳は「ややあてははる」が58.5%を占めていた。また、テレビやゲーム、インターネットの動画などは、家の人と決めた時間を守っているという児童が約90％だった。 ・ノーデジタルデーの取り組み状況が向上してきている。PTAと引き続き協力していきたい。		B	・規則正しい生活ができている(早寝・早起き・朝ご飯・歯みがきなど)と答える児童が96.6％だったことに対し、保護者回答の肯定評価91.5%の内訳は「ややあてははる」が58.5%を占めていた。また、テレビやゲーム、インターネットの動画などは、家の人と決めた時間を守っているという児童が75.5%だったことから、生活習慣の乱れにつながることを懸念される。本項目については、学校での指導だけでは徹底が難しいことであるため、継続的に啓発を行っていく必要がある。	B	・「テレビやゲーム」に関しての取組を児童や保護者に今後も啓発していく必要がある。 ・学校と保護者間で話し合いをもち、継続的に啓発を行っていく必要あり。 ・ノーデジタルデーなどのPTA活動での取組をさらに推進していくことが必要と感じた。 ・佐賀県教育委員会から出されている「家庭学習の手引き」を参考に、「声かけ」や「関わり方」について各家庭での取組を交流する等、もう一歩突っ込んだ取組をPTAと連携する必要があるのではないかと。	たくましい子プロジェクト 長 教務
	○体力づくり	○体育やスポーツチャレンジなど、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が90％以上	・体育学習の充実を図り、体育の時間やマラソン大会などにおける自己の記録向上に向けての意欲を高める。 ・体育の時間やたてわり活動を通して、佐賀県スポーツチャレンジに参加し、運動の楽しさや競争することの楽しさを感じさせる。	A	・体育やスポーツチャレンジで、「自分の記録をのばそうとがんばっている」と答える児童が93.7％だった。・体育の時間に目標を持たせて取り組むことができている。縦割りの活動や授業の中でスポーツチャレンジにも取り組む予定。		A	・体育やスポーツチャレンジで、「自分の記録をのばそうとがんばっている」と答える児童が96％だった。 ・スポーツチャレンジの目標記録を掲示したり、縦割り8の字とびの記録を毎日放送でお知らせしたりしたことで、シルバー記録やブロンズ記録を達成する班も出るなど児童が意欲を持って取り組むことができた。	A	体育主任	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が90％以上を目指す。 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。	・学校行事やプロジェクトの活動を見直し・精選を行い、年間計画にもとづき、見直しをもって業務に取り組む。 ・校務フォルダーの整理を推進し、業務の効率化をめざし、前年度の時間外在校等時間(平均24時間)よりも時間短縮を目指す。 ・ペーパーレス化・ICT活用を推進して業務改善を行う。 ・定時退勤の推進	A	・「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が100％であった。今後も引き続き業務の効率化を進めていく。 ・職員の7月までの時間外在校等時間は、全職員平均で25時間であった。学校行事や校務の業務改善を推進して、更なる時間削減と定時退勤の推進に取り組むたい。	A	・「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が第1回のアンケート結果同様100％であった。職員一人一人が計画的・効率的に業務を進めており、働き方改革を意識できていると考える。 ・新しく留守番機能が付いた電話機が設置されたことで、電話対応の時間が7:30～17:30となり、業務改善につながった。 ・職員の12月までの時間外在校等時間は、全職員平均で22時間となり、前年度よりも時間短縮を図ることができた。今後も引き続き、退勤時刻を意識した業務改善を進めていきたい。	A	教頭		
●特別支援教育の充実	○児童の特性に応じたきめ細やかな指導、支援の充実	○「一人一人の実態を把握し、個に応じた支援ができている」と評価した職員が90％以上。	・特別支援教育に関する研修会(年1回以上)を実施する。 ・特別支援の授業を公開し児童の実態把握や授業の進め方について、全職員が専門性の向上に努める。 ・必要に応じて保護者との面談を行い、困り感に寄り添い将来の見通しについて共通理解をしていく。	A	・夏季休業中に市教育特別支援教育部会の研修会に全職員で参加することで、特別支援教育についての理解を深めることができた。 ・夏季休業中に保護者との懇談を実施することで、これまでの支援の在り方を確認し、今後の見直しをたしすることができた。	A	・12月に小中連携部会による特別支援学級の授業を参観することで、授業の進め方について理解を深めることができた。また、特別支援教育エリアリーダーの講話を聞くことで、実態把握の大切さと支援のポイントを学ぶことができた。授業を参観したことや講話で学んだことから、通常学級における個に応じたよりよい支援につながってたと考える。	A			
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望		・児童へのアンケートからは、「授業が分かりやすい」という回答が高いものの、単元ごとのテスト結果からは十分に学力が定着しているとは言えない状況である。 ・家庭学習での学力の定着を図るためにも、家庭の理解や協力を得る必要があると考える。 ・家庭でのスマホやゲーム等の使い方が今後の課題となると予想される。学校の指導だけでは、徹底が難しいので、家庭への啓発活動をPTAと連携して行う必要があると考える。 ・年間30日以上欠席する不登校児童・不登校傾向の児童がいるので、SCやSSW、心の相談員等の関係機関と連携して教育相談を充実させる必要がある。 ・働き方改革の一つとして現在取り組んでいる担任の負担削減のための宿題の丸付けや採点等については、今後も継続していきたい。 ・目標をもって努力し、仲間とともに高め合い、みんなのために進んで働き、よりよく生きていこうとする子どもの育成」という学校教育目標の実現に向けて、全ての教育活動における道徳教育の充実を基盤とした取組を展開する。									